



生沼 繁 議員



古河市公共施設等総合管理計画について

問 ①人口減少、少子化などで社会情勢が変わり、これからの財源確保が厳しい中、市が抱える公共施設を維持していくための課題は何か伺う。②施設を閉鎖するには利用者や関係者の合意形成が重要である。理解していただくための情報の提供と周知について伺う。③4施設を統廃合し、整備計画されている古河市総和地域交流センターは建設費のみの費用でなく、今後は

ライフサイクルコスト（生涯費用）を十分検討する必要性があると考えが所見を伺う。④建物の長寿命化は定期的な点検と診断、そして早い修繕が重要であるが、老朽化対策について伺う。

答（財政部長） ①公共施設の多くが昭和40年から昭和60年代に整備された施設で、老朽化が進行している。今後一斉に大規模修繕や建て替え等の更新時期を迎え、多額の更新費用が必要となるため、全てを維持していくことは困難である。公共施設の再編が喫緊の課題である。②古河第一保育所の閉鎖を例に挙げると、利用者や周辺住民の理解を得るために、事前説明会での閉鎖の合意や、その後の利活

用について早急な情報提供を行った。④引き続き長期的な視点に立ち、まずは分野ごとに更新、統廃合、長寿命化を進め、場合によっては分野を超えた複合化を進めることで公共施設全体の再編を進めていく。

答（教育部長） ③施設は建てて終わりではなく、コストをかけずにいかに維持管理するかが重要である。設計の段階からライフサイクルコストを重視した施設整備を目指していく。



落合 康之 議員



古河地区のごみ収集について

問 これまで何度か古河地区のごみ収集を総和・三和地区と統一するように要望した。ごみの分別を細かくない方に合わせて欲しいとの理由からである。

先日、さしま環境管理事務組合の会議に参加すると、熱回収施設の改良工事をするに当たり、交付金を受ける要件として、ごみ収集の有料化とプラスチック類の資源化が必須条件とのことであった。

このことを古河地区の方にお話ししたところ、分別収集の変更なしで有料化となるなら、これまでのまま古河地区独自でいけないのかと言われた。①古河地区独自と、さしま環境管理事務組合へ編入した場合のシミュレーションは。②古河地区が現状のまま有料化になる事に対する市長の見解はどうか。

答（市長） ②現実問題として、ごみの有料化あるいは分別化に取り組むか否かで国の補助金額が変わるため、それらも踏まえ、市民に理解していただくことが重要である。今後は、さしま環境管理事務組合の議会に具体的な提案をし、その決定を基に市民の皆さまに情報を伝えていきたい。

答（市民部長） ①古河クリーンセンターを新築し、古河市3地区のごみを単独で処理する場合と、古河地区をさしま環境管理事務組合に編入した場合で試算した結果、同事務組合に編入した方が今後20年間の概算で約60億円の費用負担抑制が見込まれる。引き続き、同事務組合への古河地区編入の協議を進める方向で考えている。



《その他の質問》

- ・市民アンケートについて
- ・道の駅について